

「忙中有閑」

昔から仕事は「忙しい人に頼め」というが
現役を離れて相談役になると仕事量がガタンと落ちて
「暇」を持て余すようになった。

そんな私だが、「暇」を克服する手段として
このように「エッセー」を書いて充実感を味わう
という風に工夫している。

従って、「暇」なのを見透かされたように
「仕事」が少なくなっている。

この少なくなった状態が「常態」化して
少し「仕事」が入ると大慌てになり
何か「特別」に忙しくなったように感じる。

「忙中有閑」という四字熟語があるが。
逆転して「閑中有忙」の状態に馴染んでしまうと
元のペースに戻すのが大変なのだ。

喩えが不適切かも知れないが
6年前のコロナ禍で「非接触」が叫ばれて
対面することが避けるようになり
強いては「仕事量」も減ったので
定時就業が「当たり前」になった。

この事は価値観の問題だが、
古い人たちは「始業準備」や「終業処理」を
勤務時間外にするのが「当たり前」という風土があったが、
これもタイムレコーダーを刻印してから「始業準備」に入り
「終業処理」が終わってから刻印する風土になった。

確かに「労働生産性」を高めることが急務の課題だが
例えば、A I や I C Tなどを導入すると

仕事を無くす人が出るのだが
「ノーワーク、ノーペイ」
の大原則を無理矢理適用する訳に行かず
「ノーワーク」でも給与を支払うことになる
つまり「ノーワーク」＝「生産ゼロ」の状況でも
雇い続けることになる。

仮に、正社員でなくパートやアルバイトなら
「時給」が基準になるので「労働」に対応できて
シフト体制などで調整できるが
正社員の方にそれを強いると
「ブラック企業」になりかねない。

しかし、現実的には
中小企業の待遇に不満を持ったとして転職するには
相当なスキルが必要なり
さらに組織に馴染む苦勞が伴うので
思い切って「社畜」と揶揄されようが我慢する
という事にも頷ける。

ホンマ、中小企業を飛び出して成功する自信があれば
思い切って独立開業することをお薦めするが、
それには借金できる「信用」が伴っていなければ
空回りになって先行き危うい
とリスクを覚悟する必要がある。

かく言う私も34年前に転職を経験したが
前職の働きは同業の中で有名な方であったので
高給で迎えられたが、
見事、役員と担当課長に挟まれて身動きがとれず
手持無沙汰に悩んだ。

翌年、営業になって「行動の自由」を得て
オフコン5台、システム開発1億円
の実績を挙げ、

会社には日本 LCA の D I P S を導入して
個人的には船井総研の客員経営コンサルタント養成学校に
自費で通って「コンサル術」を学んだ。

翌年、担当した開発が完了するのを待って
資格を活かそうとしたが社内の反対があって
思い切って退職した。

幸い亡き妻が教員だったこともあって
「私が元気なうちに」
と言ってくれ、
そして、前職の退職金と保険やトヨタ労連の基金を頼りに
創業した。

それでも、当初はお客様がなかったので
船井総研で「無茶なことをする人」というレッテルを貼られて
ホンマ、「閑中有忙」ありと言うより「閑」ばかりだった。

しかし、「天は見放さない」というか、
運よく友人から「P L 法セミナー」を手伝わないかと声かかり
そのフォローしたお客の中から
ラッキーにも第一号のコンサル契約がとれ
見事に成功して「商品」が出来て
今日に至っている。

船井総研で学んだ同期 30 人のうち、
今もコンサルタントとして頑張っているのは私一人という状態で
僅か 2 σ の領域だが
ホンマに「ラッキーも実力のうち」であり
笑福亭鶴瓶師匠の「縁・運・つき」の 3 要素に恵まれた
と今更のようだが「運」を実感している。